

事業評価の報告

(令和6年度)

単位：千円

基本目標	施策の大綱	施策と評価対象事業の概要		
		自己評価並びに有識者意見	事業費(人件費含) 評価	
歴史と文化を継承し創造する心豊かな人を育むむらづくり	こども支援の充実	① 教育支援室(旧こどもサポートセンター)事業		5,612
		自己評価	・住民福祉課のこども家庭センターの開設に伴い、従来のこどもサポートセンターの専門スタッフに異動があった。これを受け令和6年度より、名称を「教育支援室」とし、引き続き特別支援教育指導員等の専門スタッフを配置し、教育支援委員会等に向けた調査を行うとともに、こどもの具体的な姿からこども、保育士・教員・保護者への支援を行った。	A
		今後の方向	・引き続きスタッフの専門性を活かしたこども、保護者、保育士、教員への支援と住民福祉課が立ち上げたこども家庭センターとの役割分担と連携による相談、支援を実施していく。	
		意見	・こどもの育ちを大事にし、継続した支援を進めてほしい。こども家庭センターとの役割分担・連携を明確に行い、専門スタッフによる調査・相談・支援体制を更に確立していただきたい。	
		② 児童館事業・放課後児童健全育成事業		14,800
		自己評価	・放課後や長期休業中の児童を預かる事業として、こどもへのよりよい対応を学び、支援員資質向上のための研修を実施した。 ・実際の活動では、2つの放課後クラブの交流やにこにここども教室の実施により、異年齢間の交流や自然体験を実施することができた。	B
		今後の方向	・引き続き支援員の資質向上のための研修を実施し、こどもへのよりよい対応につなげていく。	
		意見	・学校、家庭を離れたこどもの成長の大事な支援の場である。支援員の資質向上の研修会を数多く実施し向上を図ってきており力がついてきているので更なるこどもたちへの対応の充実に努めてほしい。	
		③ 放課後学童施設ICT化推進等事業		1,132
		自己評価	・保育・教育施設業務支援システム「コドモン」を導入したことにより、利用状況の管理及び欠席連絡等がスムーズにできるようになり、保護者、施設職員双方の負担軽減につながった。また、保護者への連絡や、施設からの通知もこのシステムを通して行うことで保護者へより確実に連絡がとれるようになった。	A
		今後の方向	・保護者向けのマニュアルを用意し、個別のサポートも実施していく。 ・アプリ通知に加え、必要に応じて、電話連絡も併用しながらの体制を整える。	
		意見	・システムの充実により支援員、保護者とも負担が軽減されとてもよい。今後個別サポート実施等保護者と更なる充実を図ってほしい。	
		④ 私学助成事業		920
		自己評価	・私立高等学校へ通学する生徒に対する保護者負担の軽減ができた。	A
		今後の方向	・引き続き実施していく。	
		意見	・保護者の要望・感想等参考に引き続き実施してほしい。	

⑤ 学力検定受験料補助事業		159	
自己評価	制度を使用して検定を受ける児童、生徒が増え（R6 51人、R5比17人、50%増）、児童生徒の学びの支援ができた。昨年より	A	
今後の方向	・引き続き児童生徒のやる気と学びを支援していく。		
意見	・検定を受ける児童・生徒が増えており補助金を出していただきありがたい。学びとやる気の支援になっており、継続して行ってほしい。		
⑥ 保小中給食費無償化事業		21,770	
自己評価	・無償化により、保育園、小中学校に在籍する子を持つ子育て世代の負担軽減を図ることができた。	A	
今後の方向	・米の価額の高騰を受け、1食あたりの単価について、検討が必要。		
意見	・保護者にとってとてもありがたいことである。価格高騰等対処しながら工夫して継続して行ってほしい。		
⑤ (文科型) コミュニティ・スクール関連事業		134	
自己評価	・5年度に続き、文部科学省型のコミュニティ・スクールの運用2年目。学校運営協議会を3回・学校評価委員会を2回開催した。学校運営協議会では、「防災」をテーマに、学校が避難所となった場合の対応など外部講師による研修を実施し、実際に避難所を開設する時に用いる資機材などを確認できた。	B	
今後の方向	・学校、保育園からの課題共有、運営方針に応じた活動についての協議（熟議）がなされる学校運営協議会にしていく。 ・コミュニティ・スクールの制度や活動について、広報することを通して地域住民への周知を図る。		
意見	・地域ではこどもの数が減少し、学校とのつながりが希薄になっている。運営協議会の中では協議が進み委員の理解が進んでいると思うが、地域住民までまだまだ理解がされていない。コミュニティスクールの意味を地域・学校共に理解を深めるよう広報の充実と啓発を行い、いかにして地域とともにある学校づくりができるか協議を深めて行ってほしい。		
⑥ 青少年育成補助事業		591	
自己評価	・コロナ禍以来、育成会の活動も停滞気味である。しかし、青少年育成補助を継続し、地域の活動を支援した。	B	
今後の方向	・各分館の正副育成会長による筑北村子ども会育成連絡協議会を開催し、各地域の情報交換を行った。少子化でこどもが少ない地域については、他地区と合同で活動することなど促していく。		
意見	・少子化でこどもが少なくなり大きな活動ができづらくなっている。分館にこだわらず、育成会長が集まって、大きな集まりを作り活動していくことが大事。こどもは集団の中で成長していくので育成会長で情報交換をしたり、アイデアを出して取り組んでほしい。大きくまとまれば補助金も大きくなり、大きな活動もできると思う。		
第2節	① 保育園加配保育士配置事業	7,844	
保育環境・幼児教育の充実	自己評価	・保育支援委員会で個に応じた支援の在り方を検討し、必要に応じて加配保育士を配置した（筑北ひまわり保育園4名、坂井保育園1名）。個に寄り添った支援を行うことで対象児の発達、成長をサポートできた。	A
	今後の方向	・今後も園児および保護者の保育ニーズを精査し、保育支援委員会での検討を経て、個に応じた支援ができるようにしていく。一方で、対応できる人員配置等体制整備を進めていく必要がある。	
	意見	・保育支援委員会での検討に基づき今後も加配保育士を必要に応じて対応していただきたい。	

		② やまほいく・2園合同交流保育事業	404
	自己評価	・年長児は合同保育を行い、仲間意識が生まれ、安心して就学を迎えることができた。年中児も交流保育の回数を増やすことで相互に関係し合って遊ぶ姿が多くなった。 ・やまほいくでは、両園の周囲の環境を生かした保育活動を行い、地域の応援団の方の協力も得て自然体験や栽培活動等の活動ができた。	A
	今後の方向	・職員同士、職員と地域の応援団の方との打ち合わせやこどもの育ちの姿を語り合う場を継続して作り、保育の充実をはかっていく。	
	意見	・職員と地域応援団との打ち合わせや二園の交流もうまくいっている。今後はさらに地域の支援を広げて自然に園児が親しめるよう努力してほしい。	
		③ 保育園施設修繕等環境整備事業	5,764
	自己評価	・ひまわり保育園遊具（滑り台）の更新、放送機器（アンプ）の入れ替えを実施した。また、合併前から使用してきたピアノ1台を廃棄し、電子ピアノを購入した。また、坂井保育園では、電話機設備の更新、園舎屋根の修繕（雪止め、雨樋ほか）を行った。経年劣化による修繕、更新が必要な箇所が増えて来ている中で、必要な環境整備をすすめることができた。	A
	今後の方向	・施設、設備の経年劣化による修繕箇所が増加傾向にあるが、必要に応じて毎年、計画的に修繕等を行い、保育園の安全性の向上やより良い保育環境づくりを図る。	
	意見	・施設、整備必要に応じて修繕を行って良い環境作りを力を入れていただいる。一層支援を充実させてほしい。	
第3節	① 学びの改革推進事業		300
学校環境・学校教育の充実	自己評価	・研修を通して「自分自身の意識改革の必要性を感じた」とベテラン教諭が述べる等、学びの改革への意識の芽生えがみられた。・先進地視察では、愛知県小牧市でこれまでの取り組みの経過と実際の小中学校での学び合いの姿を視察した。今後筑北村の「学び合い」の目指す姿をイメージすることができた。	A
	今後の方向	・引き続き現場教員が参加する研修や先進地視察を実施し、学び合いの理論的な理解、認識の共有化を図り、「学び合い」を進めていく。	
	意見	・現場職員の研修や先進地の視察は、新たな教育に目を開かしてくれ筑北村の教育を進める力になる。研修内容を教育現場に具体的に生かし、今後も続けてほしい。	
	② 教育課程特例校指定による外国語活動の推進、英語とともだち、中学校語学指導助手配置事業		
	自己評価	・保育園では、外国語にふれあう機会を設けることに重きを置き、地域住民の協力による外国語の絵本の読み聞かせを実施できた。 ・小学校では、担任と村費の外国語指導助手（ALT）とのTTによる外国語の授業を1年生から実施することで保育園からのつながりと3年生以上の外国語学習につなげる授業を行うことができた。 ・中学校の外国語学習を外国人指導助手（ALT）とともに外国語学習の指導を行うことにより、生徒は生きた英語に触れることができ、リーディングの発音、ヒヤリングの力の向上につながった。	A
	今後の方向	・今後も継続実施し、外国語学習の充実を図るとともに、小学校教育課程特例校指定による外国語活動の充実を図るため小学校にも外国人指導助手（ALT）を配置する。更に保育園にも外国人指導助手（ALT）を配置し、保・小の外国語活動を充実させ、村のこども達の英語力の向上を目指す。	
	意見	・外国語力をつけるため、保・小・中で工夫して取り組んでいる、今後も更に工夫して外国語力・コミュニケーション力が付くよう努力してほしい。一方で、他領域とのバランス・調和を大事に進めてほしい。	

③ 小中学校教科担当・図書館司書配置事業		22,012
自己評価	・小学校では、算数・理科・体育・音楽の教員を配置、中学校では数学、国語、英語、体育、技術科の教員を配置し、専門的な教科学習の充実が図られた。 ・図書管理システムの更新を行ったことで、図書館の適切な管理及び利便性の向上が図られ、本の貸し出し数の向上、図書館教育の推進に貢献できた。	A
今後の方向	・小学校高学年の教科担任制が更に進む中、専門教科教員を配置するにあたり、教員の確保が大きな課題である。また、中学校も特別支援学級数及び生徒数に応じ、週指導時数が多い教科において、教科担任の配置が必要になってくるが、同じく教員の確保が大きな課題である。 ・児童が興味を持つような図書を整備し本に親しむ環境を整備していく。	
意見	・配置や確保が困難な中、良く努力されてきた。恵まれた教育力で一層成果を上げていただきたい。 ・専門教科に小・中とも村費で講師を雇用し児童生徒の学力向上に力を入れていただきとてもよい。各教科の指導研修を充実をさせてほしい。読書力をつけるため図書館司書を配置していただきありがたい。村の負担を考えると県費で配置できないか要望していただきたい。	
④ 小中学校特別支援教育支援員配置事業		24,320
自己評価	・児童生徒一人ひとりの育ちに応じた支援の充実を図るため、教育支援委員会や支援会議で個に応じた支援のあり方を検討し、あらゆる学びの場及び生活の場で、一人ひとりの育ちに応じた適切な支援ができるようにしている。更に、特別支援教育支援員の研修を行い、支援の質の向上と充実を図っている。	A
今後の方向	・温かな見守り支援を必要とする児童生徒の状況に応じ、各学校への支援員の配置を行うとともに、支援の質の向上に資する事業を展開する。	
意見	・支援員配置と教育支援委員会の活動で個別の支援を要する児童・生徒への適切な支援が充実している。更に支援の質の向上を目指して研修・努力をお願いしたい。	
⑤ 要保護・準要保護就学援助事業		645
自己評価	・国の制度に基づいた生活困難な世帯への補助制度であり、その認定については補助提要に基づく判断をおこなっているが、生活の困難さが世帯によって異なるため、認定のための判断が難しい世帯が増加傾向にあるが、ケースごとに慎重に判断し、支援している。	A
今後の方向	・今後も生活困難な世帯への就学補助を行い、児童生徒が問題なく学校生活を送れるよう継続実施する。また、特別支援学級に在籍する児童、生徒への補助についても検討する。	
意見	・今後も生活援助の必要な世帯に援助の継続をして欲しい。	
⑥ GIGAスクール構想推進事業		7,318
自己評価	・令和7年度の端末更新を控え、補助要件とされた小中学校のネットワークアセスメントや端末整備・更新計画等の4つの計画を策定するなど、前年度に行うべき環境整備を行うことができた。	A
今後の方向	・ICT支援員による小中学校の児童生徒及び教職員にICTの支援を引き続き行っていく。また、情報モラルの学習について、学校と連携した取り組みを計画していく。 ・令和7年度中の端末等の更新をすすめ、利用環境を整えていく。	
意見	・ICTが小中に導入され教育効果を上げる取り組みをしている。今後は効果的な活用の研修・研究を進めてほしい。	

⑦ 小中学校施設修繕等環境整備事業		11,493	
自己評価	・小学校では、防火シャッターの改修工事、FF式ストーブの入替工事、外壁の補修、教室床フローリングの補修修繕等を実施した。中学校では、体育館床面の修繕を行うとともに、校庭の排水のための暗渠設置を行った。これらにより児童、生徒が安心、安全に学習に取り組める環境の整備を進めることができた。	A	
今後の方向	・経年劣化に伴う修繕も多くなってきており、毎年、計画的な施設修繕等を行い、学校の安全性の向上やより良い学習環境づくりを図る必要がある。		
意見	・「今後の方向」の方針に沿って計画的な環境整備を進めたい。		
⑧ 特色ある学校づくり推進補助事業		872	
自己評価	・児童生徒が地域の人々と関わりながら、地域の歴史や文化、自然や産業を題材に探究的な学習展開し、ふるさと筑北村を愛し、未来社会を切り拓くための資質・能力を育む「ふるさと学習」に財政面での支援ができた。小学校においては、75%の児童がアンケートで総合的な学習の時間の学習に進んで取り組めたと回答した。中学校においては、善光寺街道&あずまやマルシェのイベント等を通じて郷土の良さを感じ、地域にその良さを発信することができたと振り返った生徒が全体の88%に上った。	A	
今後の方向	・「ふるさと学習」について、こどもたちの探究活動が深まるような学習となるよう引き続き財政的な支援をする。		
意見	・地域を知ることとはとても大事なことで小中学校とも「ふるさと学習」に力を入れていただきよい。このことが郷土愛につながっていくので予算措置も充実してほしい。 ・学習の探究活動が深まるよう村民による支援の啓発と財政支援を進めたい。		
第4節	① 文化財保護事業（青柳宿切り通し案内看板修繕）	385	
歴史・文化の継承と創造	自己評価	・案内板の刷新ができ、より見やすいものとすることができた。	A
	今後の方向	・文化財の調査、整理を進めながら指定、保護に努めていく。	
	意見	・村民に役立ってきた旧国鉄のトンネルや旧坂北村役場庁舎等近代遺産保護にも目を向け、「今後の方向」のように進めてもらいたい。 ・文化財は村の宝。保護に力を入れ、パトロールも定期的に行ってほしい。	
第5節	① 社会人権教育推進事業	0	
人権尊重社会の推進	自己評価	・人権意識を高めるため、住民福祉課と連携して人権尊重の村づくり審議会及び人権講演会を実施するとともに、にこにここども教室でも人権教育を扱う回を行った。	B
	今後の方向	・引き続き住民福祉課とも連携し、村広報、公民館活動、講演会等のあらゆる場で、身近な人権事例等を意図的に取り込み、人権尊重の意識が高まっていくよう啓発していく。	
	意見	・人権尊重の意識はとても重要なこと。小中学校では人権について学んでいるが村民は意識が薄いと思う。人権侵害や村民意識の把握に努め、人権に触れた身近な問題など広報等で啓発して欲しい。	

第6節	① 生涯学習事業（各種イベント・講座等開設）		1,380
生涯学習の推進	自己評価	・住民の参加、協力を得ながら文化祭や各種講座、教室を実施することができた。	B
	今後の方向	・講座の内容など、ニーズ把握に努め、前例にとらわれずに企画、運営していく。	
	意見	・生涯学習事業を広く、深く実施するために社会教育主事、学芸員配置や職員の増員を検討されたい。 ・社協・観光課等生涯学習関係団体と連携・分担を密にし、全住民が生きがいを持てる事業を計画的に推進してもらいたい。文化祭や各種講座は村民の教養のレベルアップに大事なこと。新し知識や村民のニーズは何か調べ取り入れてほしい。	
② 公民館報発行事業		538	
自己評価	・館報情報部委員に新たなメンバーを迎え、協力して地域の情報をできるだけタイムリーに伝えられるようにしてきた。	B	
今後の方向	・誰もが読みやすく親しみのある紙面とするため他の自治体の館報の研究や、研修会へ積極的に参加していきたい。情報発信が後手後手にならないよう、事業計画や進捗状況を的確に把握していく。		
意見	・館報も充実してきている。これにより公民館活動が充実していくことを願う。人権に関する記事を載せたり、新しい企画をどんどん取り入れてほしい。		
③ 地域保育園学校協働活動事業		488	
自己評価	・地域保育園学校協働活動の一環として、筑北寺子屋、筑北未来塾（小、中学生への学習支援）のほか、地元住民も加わってイングリッシュキャンプを実施できた。	B	
今後の方向	・各年齢層の参加者ニーズを捉えた教室等を開催していきたい。また、時代に合った開催方法を模索しながら、より充実した事業展開を図る。		
意見	・寺子屋、未来塾等こどもの学習支援、地域住民との交流ができるキャンプ等の実施はすばらしい。寺子屋、未来塾のさらなる充実をお願いしたい。		
④ 文化系クラブ育成補助事業		240	
自己評価	・コロナ禍から徐々にではあるが、活動が再開されてきており、各種団体への活動補助事業の成果は、文化祭への展示・発表への参加につながっている。	B	
今後の方向	・クラブ員の高齢化が進んでおり、クラブ数が減少傾向にある。学ぶことを継続していけるよう支援をしていく。		
意見	・クラブ員の文化祭の作品展示やステージ発表で活動の様子がよくわかる。高齢者や既成クラブに入れない人に向けた講座等社協と協力し合って紹介や企画実施するなど、生きがいを広げる試みを試行していただきたい。		
⑤ 分館運営・活動補助事業		2,660	
自己評価	・コロナ禍以降、活動の停滞が見受けられるが、徐々に活動が増えている分館もあり、それぞれの分館活動を支援することができた。	B	
今後の方向	・ニュースポーツの種目の紹介などにより分館役員の支援をすることで分館活動の活性化を図る。		
意見	・コロナ禍で分館活動が停滞気味で以前のような活動にはいたっていないが、地域活性化には分館活動は欠かせない。新鮮な活動や魅力的な実践事例等広報や研修会等で学び合い、活動の活性化を支援してもらいたい。		

⑥ 本城公民館修繕工事		1,851	
自己評価	・講堂や階段踊り場内壁修繕を行い、公民館利用者が快適に施設利用できるようになった。	A	
今後の方向	・今後も経年劣化による修繕を要する箇所の発生が見込まれるが、定期的に点検を実施し、必要に応じて計画的な修繕を実施する。		
意見	・修理を良くやっただけでいる。今後も定期的に点検し修理箇所があれば計画的に修理し快適に過ごせる施設にしてほしい。		
⑦ 筑北村公民館調理器具更新事業		616	
自己評価	・調理室器具を更新したことで、使いやすく安心安全に調理室を利用できるようになった。	A	
今後の方向	・今後も経年劣化による修繕を要する箇所の発生が見込まれるが、定期的に点検を実施し、必要に応じて計画的な修繕を実施する。		
意見	・修理を良くやっただけでいる。今後も定期的に点検し修理箇所があれば計画的に修理し快適に過ごせる施設にしてほしい。		
⑧ 図書館利用促進整備事業		14,571	
自己評価	・図書システムの更新を行い、Web蔵書検索機能など利便性の向上が図られた。合わせて「協働電子図書館 デジとしょ信州」の利用など図書館サービスの向上に努めてきた。また、図書館まつり等のイベントにも力を入れ、入館者が増加した。	A	
今後の方向	・利用者のニーズにさらに応えられるよう、図書や雑誌等を充実させていく。また、利用者が参加したくなるようなイベントをより多く開催していく。		
意見	・講座・イベント・読み聞かせなど楽しい企画を実施してよくやっている。これからも新しい企画や図書の充実を努めてほしい。		
第7節	① スポーツフェスティバル・教室等事業（イベント、大会・教室他）	521	
スポーツ活動の推進	自己評価	・スポーツフェスティバルは、こどもから高齢者までが参加できる種目で実施した。そのほか、ゴルフ大会、市町村駅伝大会（小学生）への参加、ソフトバレーボール大会、ピラティス教室、バルシューレ教室などを実施することができた。	B
	今後の方向	・各教室や講座の開催方法や周知する方法を前例にとらわれず、多くの村民に参加してもらえるよう検討していく。また、スポーツフェスティバルは、誰でもできる内容を引き続き模索するとともに、外部団体の参加、協力を得て実施していく。	
	意見	・スポーツフェスティバルは全村民が参加できるイベントであるので楽しく参加できるよう今後も企画してほしい。またスポーツ大会等も多くの村民が参加できるように実施方法や広報に力を入れてほしい。	
② 筑北SIC開通記念小学生サッカー教室		1,650	
自己評価	・筑北スマートインターチェンジ開通を記念したサッカー教室を実施した。元日本代表選手を講師に、村内外から多くの参加者で賑わった。 ・サッカー場の知名度向上につながった。	A	
今後の方向	・サッカー場の利用促進に向け、様々な場面を通して広く発信していく。		
意見	・記念サッカー教室を今年だけで終わらせず続けてサッカー場の利用促進につなげてほしい。また、筑北地域のこどものサッカー熱も高めてほしいし、小学生が望む他のスポーツへの支援も広げていただきたい。		

③ 体育協会補助事業		606
自己評価	・ここ数年、コロナ禍で活動が休止又は縮小されていたが、それぞれの団体の活動が徐々に従来の活動が行われてきており、補助金を通じて活動の支援ができた。	B
今後の方向	・各団体の加入者が高齢化により減少傾向にあるため、補助金を活用していただきスポーツ振興をさらに進めていきたい。	
意見	・最近では団体の高齢化が進んでいるので団体の紹介を村でもしていただき仲間を増やしてほしい。また自分たちのクラブでも呼びかけも大事である。 ・各年齢層を考慮したスポーツ新グループ結成や既成グループの支援等工夫・充実させ、生涯スポーツを目指したい。	
④ ナイタースポーツ団体補助事業・スポーツ少年団補助事業		277
自己評価	・坂井ナイターソフトの活動が再開され、活動補助をした。また、バスケットボール、バレーボールを中心にジュニアチームの活動が定着してきている。	B
今後の方向	・全体として活動は縮小傾向であるが、ソフトボールなど地域を越えて活動したいという動きもあるので、実施に向け支援していく。 ・地域でのこどもたちのスポーツ活動の受け皿として引き続き支援していく。	
意見	・各地域で行われていたナイターソフトボールがコロナ禍で中止になり復活したのは坂井地域のみ。各地域で行うのではなく村全体で活動していく方向も考えてもよくなるか。 ・これから村のスポーツをになっていくジュニアチームの活動も大いに支援していただきたい。	
⑤ 分館交流事業		100
自己評価	・参加人数の減少により、分館対抗の球技大会開催は難しく、地域ごとに分館交流ということでグラウンドゴルフ等の球技大会を実施し、参加者の交流をはかった。	B
今後の方向	・引き続き3地域合同で開催することや個人種目的なメニューで参加してもらうことなど交流活動の在り方を検討していく。	
意見	・分館対抗の球技大会は各分館の若者も少なくチーム作りが難しい現状であるが分館対抗は分館の人たちを元気づける要素がある。球技にとらわれず誰でも参加できそうなスポーツを考えていく必要がある。	
⑥ ふれあい広場改修工事		1,604
自己評価	・コテージ修繕を行い利用者が快適に利用できる環境整備ができた。 ・焼き窯の改修を行い、3か所から5か所に増え、利用者の利便性向上につながった。 ・遊具修繕を行いより安全に利用できるようになった。 ・管理棟にエアコンの設置を行い、熱中症対策など管理人の労働環境改善が図れた。	A
今後の方向	・経年劣化により、今後も修繕を必要とする箇所が発生すると見込まれる。定期的な点検、管理人へのヒアリングを行い、改善点を抽出し、優先順序をつけて改善していく。	
意見	・広場の遊具や建物定期的に点検し修理が発生したら計画的に修理してほしい。人工芝の滑り台が放置されたままになっている。復元が難しければ撤去して別の用途を考えた方がよいと思う。	
⑦ ふれあい広場土地購入事業		4,858
自己評価	・借地を購入することにより、今後の財政負担軽減につなげることができた。	A
今後の方向	・残り21名の借地があるが、地権者と計画的に交渉を進め、順次購入していく。	
意見	・夏場利用が盛んである広場充実のためにも借地購入に力を入れてほしい。	

⑧ 本城体育館修繕工事		3,559
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・間仕切りネットの修繕を行い、本来の機能回復ができた。 ・カーテンレールの修繕工事を行い、利用者が快適に利用できるようになった。 ・玄関前タイルの修繕を行い躓きによる転倒の防止ができた。 	A
今後の方向	・今後も経年劣化による修繕を要する箇所が発生が見込まれるが、定期的に点検を実施し、必要に応じて計画的な修繕を実施する。	
意見	・活発に利用されている施設なので、必要な修繕を計画的に進めてもたい。	
⑨ やすらぎスポーツ広場改修工事		3,448
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・野球場バックスクリーンの塗装を行い見やすい状態となった。 ・散水ポンプ、送水管の修繕を行い、漏水箇所を直すことにより、水資源の有効活用を図った。 ・テニスコート照明の修繕を行い、利用者が安全に利用できるようになった。 ・回転遊具設置工事を行い、利用者の安全性、快適性が向上した。 	A
今後の方向	・今後も経年劣化による修繕を要する箇所が発生が見込まれるが、定期的に点検を実施し、必要に応じて計画的な修繕を実施する。	
意見	・スポーツ施設の利用は村内・村外の利用者が多い。定期的に点検し快適な施設にしてほしい。	

総合評価		
評価	評価区分	考え方
A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り順調に進んでいる ・十分に効果が上がっている 	優れた取組や状況等が見られ、課題はほとんどなく、順調に計画が進んでいるもの。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね計画通り進んでいる ・成果がみえる 	良い取組や状況等が見られ、若干の課題はあるものの、概ね順調に計画が進んでいるもの。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・計画がやや遅れている ・一定の成果が見えるが改善が必要 	課題が少なからずあり、計画の進歩がやや順調ではないもの。また、一定の成果はあったが課題が生じたもの。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・計画が大幅に遅れている ・成果が上がっておらず、抜本的に見直しが必要 	課題が多く、着手できていないか、着手しても殆ど成果が上がらないほど、計画が進まなかったもの。